

パグウォッシュ会議 2日間の討議

1975.8.30
朝日

科学者は手を汚すまい

核軍縮 具体的な提案次々

「完全核軍縮への新しい構想」をメインテーマに、二十八日から京都市左京区宇治、国立京都国際会議場で開催されている第二十五回パグウォッシュ・シンポジウムは、活発な討議が非公開で行われている。二十九日夕、パグウォッシュ・シンポジウム議長代行のロートラット・ロンドン大教授、事務局長の豊田利幸、京都大教授らが記者会見し、二日間、十二時間にもわたる討議の内容を明らかにした。また結論はまとめられていないが「米ソとも核軍備を二〇％削減すべきだ」との提案や「原子力発電所で生成されるプルトニウムの危険性や放射能を廃棄すべきでない」「科学者は、大量殺りく兵器の開発には決して手を汚らざらねばならない」という原則をめぐり、核軍縮への具体的な、しかも突っ込んだ意見が参加者から数多く表明された。

楽観できぬ 原発の危険

【近代科学・技術 大量殺りく兵器と倫理原則】「科学者は決して人を殺してはいけない」という「ヒポクラテスの誓約」を、科学者にも適用、殺人手段の開発に科学者は手を貸すべきではないという原則を主張すべきだ」との主張に対し、一部の参加者から「国への忠誠を必ずしも否定できないので、原則確立はむずかしい」という意見も出て、全会一致はなかなか見られなかった。しかし「科学者は大量殺りく兵器の開発のために働くべきではない」との主張は、科学的には全一致ではない」との考え方は全会一致した。科学的研究には、核兵器の製造技術などを除いて秘密性をなくすべきだ、との主張もあった。

【核エネルギー、テクノロジ】平和目的の核開発などから引き起こされる核拡散の問題、石油掘削や運河作りのための平和目的の核開発をめぐって、議論がたぎった。「核を使った方が経済的だ」という考え方があがるが、インドやアメリカなど、国情により「経済的」の意味が違っており、ひびく経済的という利権の論議は、国際的「」の提案があった。

【核軍縮への第一歩】非核保有国には決して核は使わないこと、とりあえず米ソがともに核軍備の削減に具体的な乗り出すこと、たとは、それぞれ一〇％ずつ削減、核軍縮への実際的なステップを踏み出すこと、核兵器の使用については、禁止禁止の国際的議定書のように、いかなる時にも核不使用の原則を作るべきだ、などの提案があった。

c092-17-026